

2017 前期 LS [0820]

受験番号

2017 年度 甲南大学法科大学院入学試験問題

専門論文試験
民事訴訟法・刑事訴訟法
(120分)

受験についての注意

1. 試験開始の合図があるまで問題冊子を開いてはならない。
2. 問題は2ページである。印刷不鮮明、汚損等があれば申し出ること。
3. 解答用紙は民事訴訟法と刑事訴訟法各1枚である。解答用紙には裏面もあるので注意すること。
4. 解答は、該当する科目の解答用紙を使用すること。解答用紙を誤った場合、その答案は無効となる。
5. 答案は、横書きとする。
6. 答案は、実線内の番号に従って書き進めること。
7. 答案は、黒ボールペン（但し、フリクション等の消せるボールペンは不可）または黒インクの万年筆で記入すること。これら以外で記入された答案は、無効となる。
8. 答案を訂正するときは、訂正部分が数行にわたる場合は斜線で、1行の場合には横線で消して、その次に書き直すこと。
9. 下書きには、問題冊子の余白を適宜利用すること。
10. 問題冊子は必ず持ち帰ること。

専門論文試験 民事訴訟法

【問題】

以下の設問に解答しなさい。

- 〔設問1〕 当事者能力と当事者適格について説明しなさい。
- 〔設問2〕 主要事実について自白が成立した場合の効果について説明しなさい。
- 〔設問3〕 被告が主張した反対債権による対当額での相殺について、判決理由中で判断された場合に生じる効力について説明しなさい。

専門論文試験 刑事訴訟法

【問題】

次の項目について、簡潔に説明しなさい（なお、判例を前提にしなさい。）。

- (1) 保釈の趣旨と手続について
- (2) 犯行計画を記載したメモの証拠能力について
- (3) 傷害事件の被害者の証人尋問における一般的な尋問の順序、方法、注意点などについて
（なお、説明に際しては、被害者が捜査段階で事件現場において自ら行った被害の再現模様を写した写真（被告人側は証拠にすることには反対したもの）を証人尋問で利用する方法についても触れよ。）